

令和元年7月期 定例教育委員会議・会議録

- ・開催日時 令和元年7月29日（月）
午前10時00分から午後2時35分まで
- ・開催場所 羽曳野市役所 別館3階 会議室1、2
- ・出席者

教育長	高崎政勝
教育長職務代理者	金銅真代
委員	麻野多美子
委員	多田謙司
委員	新熊和彦
- ・説明者

教育次長兼生涯学習室長	清水淳宅
学校教育室長	川地正人
学校教育課長	前田幸章
学校教育課参事	小林弘典
学校教育課課長補佐	山下浩昭
社会教育課課長補佐	吉井久晃
教科書選定委員長	上角隆亮
教科書選定副委員長	三谷康朗
- ・事務局

教育総務課長	粕谷美光
教育総務課主幹	芝池淳子
- ・議事日程
 - 日程第1 会議録署名委員の指名について
 - 日程第2 議案第17号
令和2年度使用中学校教科用図書（道徳を除く）の採択について
《資料1、2、3》
 - 日程第3 議案第18号
令和2年度使用小学校教科用図書の採択について
《資料4、5、6》
 - 日程第4 教育長月次報告

- 日程第 5 議案第 19 号
羽曳野市立中央スポーツ公園条例施行規則の一部を改正
する規則の制定について 《資料 7》
- 日程第 6 議案第 20 号
後援名義の使用許可について 《資料 8－1、資料 8－2》
- 日程第 7 議案第 21 号
令和元年度羽曳野市市民表彰候補者の推薦について
《資料 9》
- 日程第 8 その他
・日程調整など

開会：午前 10 時 00 分

〔 教育長 開会の挨拶 〕

日程第 1 会議録署名委員の指名について

教育長において、金銅委員を指名しました。

日程第 2 議案第 17 号

令和 2 年度使用中学校教科用図書（道徳を除く）の採択について

《資料 1、2、3》

- 学校教育室長より、資料に基づき、令和 2 年度使用中学校教科用図書（道徳を除く）の採択について説明があり、承認を求めました。

《学校教育室長》

中学校の道徳以外の教科書については、5 月の教育委員会議において、現在使用している教科書の実績を踏まえつつ、4 年前の調査研究の内容を活用して採択することでご承認いただきました。

お手元の「資料 1」が令和 2 年度中学校使用教科用図書（案）で、現在使用している教科書の一覧と同様になっております。また、「資料 2」・「資料 3」が 4 年前の答申および調査報告書になります。また、「特別の教科 道徳」については、昨年度と同一の教科用図書を採択することになっております。

それでは、「資料 1」から「資料 3」によりまして、中学校使用教科用図書の採択についてご審議よろしくお願いいたします。

《各委員意見・質問なし》

【採 決】

全委員一致により令和 2 年度中学校使用教科用図書について「資料 1」のように採択することに決定しました。

日程第 3 議案第 18 号

令和 2 年度使用小学校教科用図書の採択について

《資料 4、5、6》

- 学校教育室長より、資料に基づき、令和 2 年度使用小学校教科用図書の採択について説明がありました。

《学校教育室長》

お手元の「資料4」「資料5」にある、令和2年度小学校使用教科用図書の採択につきまして選定委員会からの答申についてご審議いただき、採択を行いたいと思います。

今年度は、「羽曳野の子どもたちにとって学びやすい教科書はどれか」を選定の視点の中心とし、目標・内容の取扱い、人権の取扱い、内容の程度、組織配列、創意工夫、補充的・発展的学習等について、各教科の調査・選定にあたりました。

それぞれ各社の教科書には、特徴があり、どれもすぐれた編集がされておりましたが、先ほど述べました、「子どもたちにとって学びやすい教科書・使いやすい教科書はどれか」という方針に基づき、採択候補の選定をいただきました。調査委員会

は、教科ごとに複数回開催し、調査報告書を作成しました。選定委員会につきましては、調査報告に基づき計3回の協議を行い、選定作業を進めました。その中で、数社の教科書を候補とさせていただきました。

本日の流れですが、事前に配布させていただきました、調査委員会からの調査報告資料と選定委員会からの答申資料を基に、教科ごとに選定委員会からの選定理由の説明および質疑応答の時間を取ります。そして、教育委員で教科ごとに審議・採択いただきますようお願いいたします。

《選定委員長》

お手元の「資料6 新学習指導要領における各教科の目標一覧」をご覧ください。

今回ご審議いただきます全種目・各社の教科用図書とも、こちらに示されている「各教科の目標」の達成に必要な内容が適切に取り扱われており、発達段階に応じた教材が創意工夫され、配列されています。

本市で使用する教科用図書として示された各観点において、全種目・各社の教科用図書とも、その基準をおおむね満たしていることを、冒頭に申し上げておきます。また、説明にあたりまして、「資料4」選定委員会答申に書かれています内容通りではありますが、特徴的な例を示しながら、説明させていただきます。

【以下 教科ごとに採択】

国語

《選定委員長》

国語における教科書は4社ありますが、「子どもが言葉に興味関心を高め、すすんで学ぶことができる教科書、伝え合う力や思考力・想像力及び言語感覚を養うことに効果的な教科書」という視点で、選定委員会において、比較検討した結果、発行番号順で「東京書籍」、「光村図書」の2社に絞りました。

それぞれの特徴的なところとして、(6年教科書)

「東京書籍」につきましては、

- P86のように、童話作家や詩人が、自分の読書体験記を語るページが各学年に組み込まれており、読書への誘いとして大きな効果が期待されます。
- P211にある、「プロフェッショナル」の単元は、キャリア教育の視点で多角的に考えを深めることができるように工夫されています。
- P34など、各単元において「つかむ」「ふりかえる」で学習の流れを明確にし、児童が見通しを持って主体的に学習に取り組めるように工夫しています。

「光村図書」につきましては、

- P17のように、「読むこと」の単元では、主体的な学びを意識して、学習の進め方や新しい評価の観点について明示しています。
- P196のように、「対話的な学び」として、どの場面で、どんな対話を取り入れるとよいか、イラストと話例で示されており、「深い学び」に導く手立てが提示されています。
- P30のように、読書単元では、読書活動と読み物教材との一体化が図られている。読書の幅を広げ、思考力や想像力を養うことをめざし「本は友達」や「読むこと」単元の手引き及び巻末で、多様なジャンルにわたり、各学年に適した本が紹介されています。

これらが特筆すべき事項です。

羽曳野の子ども達にふさわしいと意見が多かったのは、主体的な学びを意識した「読む」単元での手引きの工夫、幅広い教材で言語感覚・感性を養うという点から、「光村図書」でありました。

ご審議よろしくお願いいたします。

《教育長》

国語について、選定委員会から第1候補として「光村図書」次に「東京書籍」との意見が出ました。意見・質問がありましたらよろしくお願いします。

《教育長》

羽曳野の子ども達にとってという点で、どういうところに良いという視点を持たれたのか教えてください。

《選定委員長》

羽曳野市におきましては、子ども達はとても読書に親しんでいます。各学校には学校司書も配置していただいていて、休み時間、放課後等、活発に図書室等活用しています。子ども達は本がとても大好きで、読むことにも力を注いでいます。そんな中で、主体的な学びを意識した読む単元での手引き、読む中で言語感覚や感性を養うという視点から、この光村図書が、読書単元では、読書活動と読み物教材が一体

化して位置づけられているというところと、「読むこと」の単元では、学習指導要領も新しくなる中で、新しい評価の観点についても明示されており、指導と評価の一体化が図られているというところもあります。特に羽曳野の子ども達にとっては、多様な言語、豊かな言語を使ってほしいということで、対話的な学びというところが、とても大事になっています。そんな中で、この対話的な学びについて、イラストと話例が示されていて、子ども達もそれを取り入れながら、さらに深い学びに導かれる、導く教師は指導ができるとうことで、光村図書がいいのではと考えております。

《教育長》

羽曳野の先生方が指導しやすいといったところはどうでしょうか。

《選定委員長》

選定委員会において、教師が指導しやすいかどうかではなく、子ども達にとってどういった教材が深く子ども達を思考させたり、授業で対話させたりというところにつながるかというところを主に考えました。教員指導の視点では、あまり議論はなされませんでしたけれども、子ども達が使いやすいということは、教師も分かりやすく指導しやすいということではないかと考えています。

《教育長》

主体的ということで、光村図書と東京書籍を見てみると光村図書のほうにいい印象を持ちます。

《麻野委員》

羽曳野の子ども達にとって主体的な学びを意識するということがとても大事なことでと思うので、どの出版社もそこを重点的ににおいておられると思うのですが、光村図書が一番はっきりと出ていると思います。

《金銅委員》

イラストも印象深く、光村図書がいいと思います。

【採 決】

全委員一致により国語の採択教科書を「光村図書」とすることに決定しました。

書写

《選定委員長》

書写における教科書は5社ありますが、子どもたちがより書写に楽しく、我が国の言語文化に親しみ、理解を深めつつ関心を高め、進んで学ぶ教科書という、新学習指導要領のめざす観点に照らし合わせて検討した結果、選定委員会において、発行番号順で「学校図書」、「日本文教出版」の2社に絞りました。

それぞれの特徴的なところとして、（6年教科書）

「学校図書」につきましては、

- P12のように、子どもの好むアニメキャラクターが使用され、身近なものを紹介したり漫画のように話し合ったりする姿が描かれており、児童の興味・関心を高める工夫があります。
- P39では、都道府県名等、他の教科と関連付けて学ぶことができるよう工夫しています。

「日本文教出版」につきましては、

- P12のように、毛筆の穂先の動きと点画の繋がりが意識しやすくなっています。
- P32では、季節感を表す言葉が集められ、生活の中でも使用できるようにしています。

これらが特筆すべき事項です。

羽曳野の子ども達にふさわしいと意見が多かったのは、手本の字の美しさも含め、筆順、漢字や仮名の大きさ・配列などに配慮されていて、子どもたちが自主的に文字に対する意識が持てる工夫がされている観点から、「日本文教出版」でありました。

ご審議よろしくお願いいたします。

《教育長》

書写について、選定委員会から第1候補として「日本文教出版」次に「学校図書」との意見が出ました。意見・質問がありましたらよろしくお願いします。

《金銅委員》

日本文教出版は、日常のこともきっちりまとめられていて分かりやすくよかったです。

《麻野委員》

学校図書の興味・関心を高める工夫がある、とはどういうことですか。また、日本文教出版は、より楽しんで進んで学べるということが、書写の目的に合っていると思いますし、手本の文字の美しさは、日本文教出版だと思います。1年生の水書きシートもいいと思います。

《選定委員長》

学校図書の興味・関心を高める工夫というのは、特にビジュアル面について、擬人化した筆のおじいさんや鉛筆のキャラクター、また、笑顔の子ども達が会話している様子等を見ながら学習が進められる、というところが、子どもが親しみやすく、興味・関心も持ちやすい、もちろん会話の中身が学習に直結しており、学習指導要領の内容を押さえており、美しい字や文化を引き継いだ字の書き方について示されているということです。

《選定副委員長》

水書きシートについては、日本文教出版が本いっぱいにとっており、字の位置も書きやすいと思います。

《新熊委員》

日本文教出版は、筆の運び方が丁寧に書かれています。実生活に役に立ちそうな手紙やポスターも取り入れられていたので自分の書いた字が、生活に役に立つということも感じられました。水書きシートも反復して練習できる場所がいいと思います。

【採 決】

全委員一致により書写の採択教科書を「日本文教出版」とすることに決定しました。

社会

《選定副委員長》

社会における教科書は3社ありますが、「社会科の重要なところは地域を学ぶ、地域から学ぶということです。子どもが楽しく地域を学ぶことができる教科書、地域の学習から問題追及ができる教科書」という視点で、選定委員会において比較検討した結果、発行番号順で「東京書籍」、「教育出版」の2社に絞りました。

それぞれの特徴的なところとして、（5、6年教科書）

「東京書籍」につきましては、

- 5年生「上、下」、6年生「政治・国際編、歴史編」と分冊となっています。
- 5年「上」P92のように、単元の終末の「まとめ」では実生活とのつながりを意識したまとめ方の例が多く、発展的な広がりがあり、児童が主体的に学習できるように配慮されています。
- 5年「上」P9など、各所に「Dマーク」が掲載されており、ウェブサイトで補充的・発展的な学習に役立つ情報を見ることができるように工夫されています。

「教育出版」につきましては、

- 5年P8など、各時限において、「この時間の問い」が設定されており、その問いを解決する具体的な活動の流れや活動後に児童の思考を次時につなげやすくするための「次につなげよう」が記載されています。
- 5年P17のように、「まとめる」の活動では、学習内容や発達段階にふさわしい児童の手本となるようなまとめ方の例が掲載されたり、書き込み形式になっていたり取り組みやすく、学習内容をまとめられるように配慮されています。
- 5年P116では、地産地消の紹介で、羽曳野市うすいえんどうの記載があり、児童にとって身近にある題材を取り扱っています。

これらが特筆すべき事項です。

羽曳野の子ども達にふさわしいと意見が多かったのは、文字と写真のレイアウトがより見やすく、児童の発達段階に応じた文字の大きさや量に配慮されているという

点を重視して、「教育出版」でありました。

ご審議よろしく願いいたします。

《教育長》

社会について、選定委員会から第1候補として「教育出版」次に「東京書籍」との意見が出ました。意見・質問がありましたらよろしくお願いします。

《教育長》

分冊になっているものと1冊のものとの違いはどのようなことですか。

《選定副委員長》

それぞれの教科書会社の工夫だと思いますが、学習を進めるにあたって子ども達が1冊の教科書で見比べたりするということで、歴史と地理の関連である等も学習できるということで、選定委員会では、分かれているより1冊の方がいいのではないかということになりました。学びやすさも含めて、特に授業を進めるときに活用のしやすさも考えたときに1冊の方がいいのではないかということになりました。

《教育長》

分冊と1冊を見比べると、分冊だと別々のことをしているように感じるのではないかと思います。教育出版は、日常の生活の中で歴史を捉えるようにつながりがスムーズであるように感じます。

【採 決】

全委員一致により社会の採択教科書を「教育出版」とすることに決定しました。

地図

《選定副委員長》

地図は発行番号順で「東京書籍」「帝国書院」の2社ありますが、地図帳は、今回より3年生から使用するものとなり、「計4年間おりにふれて活用するものであり、地理に関しての興味関心を持たせる重要な教科書」という視点で、選定委員会において比較検討しました。

それぞれの特徴的なところとして、

「東京書籍」につきましては、

- P5では、都道府県名の形と位置についてクイズなどで楽しみながら効果的に覚えることができるよう工夫されています。
- P75からは、日本の歴史と同時代の世界の歴史を関連づけて学ぶことができるよう工夫されています。
- P79の、世界遺産や、P97の、防災について取り上げ、他の教科とも関連させながら発展的に児童が学習できるようにしています。

「帝国書院」につきましては、

- P7のように、初めて地図帳を活用する3年生を意識し、内容について特に丁寧に
取り扱っています。

日本固有の領土について、丁寧に説明されています。

- P82など、様々な国で生活する人々の様子がよくわかるように写真を多用していま
す。

- P22のように、地図の色使いがよく、記載内容の読み取りが安易です。

これらが特筆すべき事項です。

羽曳野の子ども達にふさわしいという意見が多かったのは「帝国書院」でありまし
た。ご審議よろしくお願いいたします。

《教育長》

地図について、選定委員会から第1候補として「帝国書院」次に「東京書籍」との
意見が出ました。意見・質問がありましたらよろしくお願いします。

《金銅委員》

帝国書院が見やすかったです。

《多田委員》

古市古墳群等の歴史も入っており帝国書院が見やすく感じました。

【採 決】

全委員一致により地図の採択教科書を「帝国書院」とすることに決定しました。

算数

《選定委員長》

算数における教科書は6社ありますが、「算数は、基礎基本の積み重ねが大切な教
科であること。算数的活動の楽しさや数のよさに気付くこと。つまり、算数に対し
て興味・関心がもてること。」を観点に、選定委員会で検討した結果、発行番号順
で「東京書籍」「学校図書」「教育出版」の3社に絞りました。

それぞれの特徴的なところとして、(1、5年教科書)

「東京書籍」につきましては、

- 1年①P4のように、文章の記述や分量について、児童の発達段階を考慮した内容
となっている。1年生の最初の2単元は、A4サイズの大きな分冊としている。教
科書への書き込みができ、ノート機能も併せ持った構成であり、開きやすく、ブロ
ックも置きやすいため、数学的活動がスムーズにできます。

- 「上」P12のように、数学的な見方・考え方を「虫めがねマーク」で示すことで見通しをもち、筋道を立てて、思考・判断・表現することができる内容になっています。
- 「上」P26のように、キャラクターの吹き出しや補助発問によって、問題解決ができるように工夫されています。

「学校図書」につきましては、

- 「上」P5では、2年生から9種類の『考え方モンスター』を登場させ課題に対して「どのように考えるのか」というヒントをわかりやすく示しています。
- P10のように、単元前に「？を発見」が設定されており、日常生活などの身近な言葉や既習事項から問題が発見できるよう、マンガ形式の導入を用いています。
- P95など、単元末や巻末に「できるようになったこと」「深めよう」「学年の復習」「今の自分を知ろう」「ほじゅう問題」などが設けられ、学習を振り返り、深めることができるように配慮されています。

「教育出版」につきましては、

- すべての学年の最初の目次で、学習内容のつながりがわかるように工夫されている。また、P59のように、それぞれの単元が始まる際に『？』があり、どんな学習が始まるのかを明確に示す工夫がされています。
- P55では、注目してほしい課題に関しては四コマ漫画を採用することで、わかりやすく工夫されています。
- P258からは、巻末に発展的問題を含んだ補充問題があり、自学自習できるように工夫されています。

これらが特筆すべき事項です。

羽曳野の子ども達にふさわしいと意見が多かったのは、自ら学びに向かうことのできる手立てが多くあり、また、対話的な学びにつながる点から「東京書籍」で次に多かったのが「学校図書」そして「教育出版」でありました。

ご審議の程お願い致します。

《教育長》

算数について、選定委員会から第1候補として「東京書籍」次に「学校図書」第3に「教育出版」との意見が出ました。意見・質問がありましたらよろしくお願い致します。

《教育長》

前回の教科書選定の際は、東京書籍と啓林館を比較したと思いますが、基礎、基本に重きを置いて丁寧な説明をされているということで東京書籍となりました。啓林館は、応用に重きを置いているという印象でした。羽曳野の子ども達には、基礎、

基本を大事にしてということでしたが、今回は、そういう視点はなかったですか。
《選定委員長》

選定委員会では、自ら学びに向かうという手立て、対話的な学びにつなぐことができるところを主に選定の基準として考えました。東京書籍は、児童の発達段階を考慮されていて、見通しをもって筋道を立てて判断、思考できるということも大事なポイントだと捉えました。

《教育長》

子ども達が自ら学ぶという点では非常に丁寧だと思いますが、情報量の多さが子ども達の不安にならないでしょうか。

《選定委員長》

そういう意味では、東京書籍の1年生の最初の2単元の別冊が、選定委員会では、注目のポイントでもありました。A4サイズで大きく、書き込みもできブロックもおけるというところがいい、という意見もありました。

《麻野委員》

テープ図も段階に応じて習得できるようになっており、東京書籍がいいと思います。

【採 決】

全委員一致により算数の採択教科書を「東京書籍」とすることに決定しました。

理科

《選定委員長》

理科における教科書は6社ありますが、理科の学習で大切なのは、主体的・意欲的に問題解決学習に取り組みながら、科学的な見方や考え方を育むことです。その点で各社の教科書を比較検討しました。選定委員会で検討した結果、発行番号順で「大日本図書」、「学校図書」、「教育出版」の3社に絞りました。

それぞれの特徴的なところとして、（5年教科書）

「大日本図書」につきましては、

- P12からあるように、全学年の学習過程を「問題を見つける（見つけよう）」「問題」「予想（しよう）」「計画（をたてよう）」「観察／実験」「結果」「考察（考えよう）」「結論（わかったこと）」に統一し、学習に一貫性を持たせ、児童にとって流れが理解しやすくなっています。
- P121など、技法や器具の取扱い、必要性などが丁寧に説明されており、児童の観察・実験能力が向上しやすく、観察・実験の安全性にも十分配慮されています。
- P24のように、紙面のレイアウトや使用されている文字（UDフォント）、絵や写真の配置や色づかい、読みやすい位置での改行などがされており、ユニバーサルデザインを意識した配慮がなされています。

「学校図書」につきましては、

- P90のように、写真が多く掲載されており、視覚による理解がしやすくなるように配慮されています。
- P39など、各学年、異なる歴史上の科学者がキャラクターとして登場し、科学へ親しみやすくなる工夫がされています。
- P62のように、「資料」「やってみよう！」によって発展的学習に触れており、児童の興味関心を広げられる工夫がされています。
- 「教育出版」につきましては、
- P28など、教員の発問、児童の考えなどがキャラクターの吹き出しになっている箇所があり、学習の中で持つべき視点が与えられ、児童にとって学習をすすめやすい配慮がされています。
- P145では、5年「川と災害」では、「大和川の付け替え工事」が資料として掲載されており、4年生での社会科とリンクし、学びを深めやすくなっています。
- P64のように、「科学のまど」「資料」「チャレンジ」「ステップアップ」「広がる科学のまど」など、多くの場面で発展的学習に触れ、児童の興味・関心に応じた内容が学習できるように配慮されています。

これらが特筆すべき事項です。

羽曳野の子ども達にふさわしいと意見が多かったのは、学習に一貫性を持たせ、児童にとって流れが理解しやすく、また、日常生活と関連づけて科学的な見方や考え方を育成できる点から、「大日本図書」で次に多かったのが「学校図書」そして「教育出版」でありました。

ご審議の程お願い致します。

《教育長》

理科について、選定委員会から第1候補として「大日本図書」次に「学校図書」第3に「教育出版」との意見が出ました。意見・質問がありましたらよろしくお願いします。

《教育長》

現在の教科書は、東京書籍ですが、大日本図書に変わるとどういった違いがありますか。

《選定委員長》

学習指導要領の改訂で、それぞれ全面的に大きく変わっています。どの教科書もとても良かったです。疑問を持って問題解決するための見通しを持つ、そして観察、実験を行い、結果を経て思考、考察し一般化、普遍化していく、というこの流れが、一番分かりやすいのが大日本図書でした。その辺の一貫性が分かりやすかったのと、ページの渡りが整理されていて、子ども達にとって分かりやすいのではないかと思います。東京書籍も同様に理科的、科学的思考の過程がありました。そのような中で、ページ配置や情報量の多さから、精査されている大日本図書が子ども達に

は、分かりやすいのではないかというのが選定委員会での意見でした。

【採 決】

全委員一致により理科の採択教科書を「大日本図書」とすることに決定しました。

生活

《選定副委員長》

生活における教科書は8社ありますが、「具体的な活動や体験を通して、身近な生活にかかわる見方・考え方を活かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することをめざす教科書」という観点で各社の教科書を比較検討しました。選定委員会で検討した結果、発行番号順で「大日本図書」、「教育出版」、「啓林館」の3社に絞りました。

それぞれの特徴的なところとして、「上」教科書)

「大日本図書」につきましては、

- P104にある、巻末の「がくしゅうのどうぐばこ」では、さまざまな学習資料がわかりやすくまとめられています。
- P33の右端に、「きらきらことば」「生活ことば」が掲載されており、生活科の中で語彙を増やすような工夫や、コミュニケーション力をつけることができるように工夫しています。

「教育出版」につきましては、

- P49左端にありますように、「ひんと」「やくそく」が様々な単元にあって具体的にわかりやすく提示されており、自ら学ぼうとする意欲を起こさせるように工夫されています。
- P45のように、学習情報をウェブサイトで見ることができるため学校や家庭で学習の広がりがあり、より深く学ぶことができます。

「啓林館」につきましては、

- 巻頭にあるように、どの単元も、「わくわく（導入）→いきいき（活動）→ぐんぐん（伝え合おう・表現）」の3段階で学習活動を展開し、「主体的で対話的で深い学び」を意識して、わかりやすい工夫をしています。
- P68では、身近な人々や自然など、生活していくうえで大切なことを、自分自身とのかかわりの中で捉え、考えることができるように工夫されています。

これらが特筆すべき事項です。

羽曳野の子ども達にふさわしいと意見が多かったのは、地域と生活等関連させた内容であり、上位学年とのつながりを意識し、社会科、理科、総合的な学習の時間への連携がスムーズにいくようなカリキュラムになっているという点から、「啓林館」で次に多かったのが「教育出版」そして「大日本図書」でありました。

ご審議の程お願い致します。

《教育長》

生活について、選定委員会から第1候補として「啓林館」次に「教育出版」第3に「大日本図書」との意見が出ました。意見・質問がありましたらよろしくお願い致します。

《麻野委員》

啓林館は、写真がきれいで、子ども達が見たときに分かりやすく、「わくわく、いきいき、ぐんぐん」3段階で学習活動を展開しているのもいいと思いました。

【採 決】

全委員一致により生活の採択教科書を「啓林館」とすることに決定しました。

音楽

《選定副委員長》

音楽における教科書は2社ありますが、子どもが音楽の構造を理解するとともに、みずから音楽表現をするために必要な技能を身に付けることができる教科書、また、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽に親しみをもって感性を育み、豊かな情操を培うことに効果的な教科書という視点で、選定委員会で検討しました。それぞれの特徴的なところとして、（5年教科書）

「教育出版」につきましては、

○P8のように、曲想のイメージを膨らませる写真が多く、迫力があります。

○鑑賞ページでは、オペラは場面ごとに写真で紹介している。また、P31では、オーケストラの配置を具体的に紹介し、子どもが日常的に接しにくいものであっても、イメージして鑑賞できるように構成しています。

「教育芸術社」につきましては、

○P2巻頭でスポーツ選手、歌舞伎役者を紹介し、「表現」の大切さを伝えている。

キャリア教育にもつながり、子どもの可能性が広がるように取り扱われています。

○P33のように、低学年ではリズムづくり、高学年ではリズムアンサンブルなど、学年毎に系統立てた音楽づくり活動が提示されている。また、音符だけでなく記号や図形を使用してわかりやすい内容です。

これらが特筆すべき事項です。

羽曳野の子ども達にふさわしいと意見が多かったのは、題材に合った写真が提供されており、聴覚のみならず視覚的な視点を通して子どもたちの関心・意欲を高めていることから「教育出版」でありました

ご審議の程お願い致します。

《教育長》

音楽について、選定委員会から第1候補として「教育出版」次に「教育芸術社」との意見が出ました。意見・質問がありましたらよろしくお願いします。

《新熊委員》

教育出版は、低学年の教科書では、音楽に合わせて体を動かすことも取り入れられており低学年の児童には取り込みやすい内容になっていました。3年生のリコーダーでは、左利きでも分かりやすく吹く側の目線での写真、イラストがあり学びやすいと思います。教育出版が取り組みやすい内容だと感じました。

《教育長》

羽曳野の子ども達にふさわしいということで、見た目に興味を引くかどうか、子ども達が教科書が難しい、なじまないということではなく、自ら学んでいけるか、興味を持てるかどうかというのが非常に重要なことです。教育出版の方が流れが分かりやすく、それに合わせた楽譜の選択がされているように感じます。

《麻野委員》

曲数も多く、子ども達がイメージしやすい内容となっている教育出版がいいと思います。

【採 決】

全委員一致により音楽の採択教科書を「教育出版」とすることに決定しました。

図画工作

《選定委員長》

図画工作における教科書は2社ありますが、「児童が図画工作を通して、芸術や創作活動に興味、関心を高め、すすんで学ぶことができる教科書、そして、思考力や、想像力を養うことに効果的な教科書」という視点で検討しました。

それぞれの特徴的なところとして、(5、6年「上」教科書)

「開隆堂出版」につきましては、

- P45では、パラリンピックの競技に触れ、障がい者への理解を図っています。
- P23のように、題材が見開きになっており、めあてから振り返りまでがひとめでわかるようになっています。
- 同じくP23には、QRコードがついており、教科書の内容に関係したこと(用具の使用法など)について、インターネットを利用して、動画などを視聴することができます。

「日本文教出版」につきましては、

- P14のように、各ページに必ず掲載されている黒板上の「3つの学習のめあて」は図画工作科の3つの目標に沿って示されています。
- P30のように、題材名のフォントや大きさ、デザインが工夫されていて、その題材に対するイメージがわきやすくなっています。
- P3にある、「教科書美術館」では、様々な色や形などについて紹介され、またP34にある、「ひらめきポケット」では、身近なものを様々な角度から見ることにより、新しい発見があるように工夫されています。

これらが特筆すべき事項です。

最も多く羽曳野市の子どもたちにふさわしいとの意見が多かったのが、子どもたちの学習や活動への関心・意欲を高めさせ、図画工作と生活の係わりが多く設定されていることから「日本文教出版」でありました。

ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

《教育長》

図画工作について、選定委員会から第1候補として「日本文教出版」次に「開隆堂出版」との意見が出ました。意見・質問がありましたらよろしくお願いします。

《金銅委員》

日本文教出版は、「気をつけること」「片付け」が常に出てくることで目を引きました。また、色を変えて書かれている「目標」が学ぶときに分かりやすく日本文教出版がいいと思いました。

《選定委員長》

対話しながら作品を相互に高めていく、子ども達がお互いのいいところを褒めあったり、アドバイスをしながら対話的に作品をよりよいものに高めていくというところが図工での大きな教育の中身にもなっていると思っています。そんな中で、選定委員会では、日本文教出版にある3つの学習のめあては、同じ目標を目指しながら子ども達が相互に高めあっていくのがいいという意見もありました。

《麻野委員》

教科書の表紙は2社ともすばらしいと思います。中身を開いてみると、開隆堂出版の作品は上手すぎるように感じています。日本文教出版は、子どもらしくて、子どもが見て「私も作れる、描ける」というものがあるように感じます。子どもにとっては馴染みやすいように思いました。

《教育長》

日本文教出版は、教科書を開いてみるとインパクトがあるように感じます。子ども達の活動している様子の写真もいいと思います。また、目次の題材名についても興味を引きました。

【採 決】

全委員一致により図画工作の採択教科書を「日本文教出版」とすることに決定しました。

家庭

《選定委員長》

家庭科における教科書は２社ありますが、「子どもが衣食住に興味・関心を高め、すすんで学ぶことができる教科書、家族や地域の人々とのかかわり方を考え、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養うことに効果的な教科書」という視点で検討しました。

それぞれの特徴的なところとして、

「東京書籍」につきましては、

- P24のように、各教材が３ステップに分かれており、それぞれに「めあて」と「ふり返ろう」があるため子どもが学習の見通しを持ちやすく、各教材で身につけるべき力を理解しやすくなっています。
- P3では、成長の記録を残せるページがあり、自己評価が２年分比べられるように工夫されています。
- P25にある、「安全」では、注意事項が図やイラストで分かりやすく書かれていて、調理や裁縫等の経験がない子どもにとっても安心できます。

「開隆堂出版」につきましては、

- P96では、熱中症、P16では、アレルギーなど身の回りの命に関わることに触れています。
- P10のように、各題材の初めのページに「学習のめあて」があり、途中には「できたかな」があり、最後のページには「ふりかえろう」があるため、学習の見通しを持ちやすく、各単元で身に着けるべき力を理解しやすくなっています。
- P27にある、「生活にいかそう」では、学んだことを活用できるように具体的なヒントが書かれており、主体的な学びにつなげる工夫がされています。

これらが特筆すべき事項です。

羽曳野市の子どもたちにふさわしいとの意見が多かったのが、実生活で活用するための内容・場面が多く、また、QRコードなどのICTの効果的な活用をする場面が多く取り入れていることで、学習内容を深め、家庭生活での実践に結びつけている「開隆堂出版」でありました。

ご審議の程お願い致します。

《教育長》

家庭について、選定委員会から第１候補として「開隆堂出版」次に「東京書籍」と

の意見が出ました。意見・質問がありましたらよろしくお願いします。

《金銅委員》

東京書籍は、家庭で料理するときには注意することや、マナーのことにも触れている、また、インターネットでの買い物についての注意等も、詳しく書かれているところがいいと思いました。

《選定委員長》

東京書籍は、A4版で大きくページ数も多く、内容の豊富さ等、情報量もあり、いろんな知識を吸収しやすい教科書だと思います。大人の目線で見ると、きめ細かくていいと思いますが、限られた授業時間数の中で、基本の骨格となる部分を学習してほしいと思っています。開隆堂出版は、色分けされていて、やることや注意点などが子ども達には分かりやすいのではないかなというのが選定委員会での意見でした。

《多田委員》

両者ともいいと思うが、デジタルデータについて開隆堂出版の方がいいという理由はどういったところでしょうか。

《選定委員長》

教科書の随所に「QRコード」がちりばめられており、大型プロジェクターで画像や動画を見て学習できることは、技術を習得するには有効だと思います。

《麻野委員》

東京書籍は、情報が豊かで大人の目線で見るといいと思います。開隆堂出版は、基本的な家庭科の内容が大きく取り上げられています。子ども達にとって表示が大きく分かりやすい開隆堂出版がいいと思います。

【採 決】

賛成多数により家庭の採択教科書を「開隆堂出版」とすることに決定しました。

休憩：午後0時10分～

再開：午後1時00分

保健体育

《選定副委員長》

保健体育における教科書は5社ありますが、「子どもたちが使いやすい、また、自分の体を大切にすることができるようになる教科書」という視点で、選定委員会で検討した結果、発行番号順で「東京書籍」「学研教育みらい」の2社に絞りました。

それぞれの特徴的なところとして、(5、6年教科書)

「東京書籍」につきましては、

○P20のように、全学年で、目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点を含め、効果的な指導が行われるように組織・配列されている。各章のはじめに「つなげよう」で他教科や他学年とのつながりが示されています。

○P5 など、はじめに課題を示し、4 段階の学習過程の中で、自分の考えや思いを書き込むことで自分のこととして課題を解決する学習活動が取りあげられています。

「学研教育みらい」につきましては、

○P20 など、單元ごとに「ここで学ぶこと」で課題を明確にし、「つかむ」では身近な健康課題や自分の生活をチェックする活動が設定されており、「考える・調べる」で思考・判断をしたことをもとに、話し合う活動ができるように取り扱われています。

○P28 のように、各章ごとに、「もっと知りたい・調べたい」を設け、学習したことを発展させたり、知識をさらに身につけたりできるように「発展」「かがくの目」などが配置されており、児童が目的意識を持って取り組めるになっています。

この2社について、さらに検討した結果、そのなかで羽曳野市の子どもたちにふさわしいとの意見が多かったのが、傷害の防止・健康な生活と疾病の予防など、予防的な観点を重要視し、割いているページが多い「東京書籍」でありました。

ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

《教育長》

保健体育について、選定委員会から第1候補として「東京書籍」次に「学研教育みらい」との意見が出ました。意見・質問がありましたらよろしくお願いいたします。

《教育長》

單元ごとに4つの学習活動の展開を示しているほか、全体的にイラストや文字が見やすく、單元のはじめの「気づく、見つける」で単元の導入するイメージが膨らますインパクトのある写真や絵を示しているもの、「考える、伝える」で大きな記入欄を作り、対話的な深い学び、そして、「まとめる」で学んだことをもう一度繰り返しできる、また、保健というところで見ると、やはり人の健康についてのウエイトが大きいという点で、東京書籍がいいと思います。

《選定副委員長》

保健というのは、他の授業と違い、体育の授業の中の1時間ということで、教科書を開けたときに、さっとその世界に入るというのは非常に大事な点であると思います。という意味では、東京書籍は、今日は何の学習をするのかというのが非常に分かりやすい書き方になっていると思います。

【採 決】

全委員一致により保健体育の採択教科書を「東京書籍」とすることに決定しました。

英語

《選定副委員長》

英語における教科書は7社ありますが、子どもたちが使う上で内容のまとまりが良く、学習の流れを特に考慮し、発展的にまなんでいけるという視点で、選定委員会において比較検討した結果、発行番号順で「東京書籍」、「学校図書」「光村図書」の3社に絞りました。

それぞれの特徴的なところとして、（6年教科書）

「東京書籍」につきましては、

- P19のように、新学習指導要領の目標を適切に取り入れて、他者に配慮した主体的なコミュニケーション活動を行いながら、児童が「英語の楽しさ」を感じることができる内容となっています。
- 5，6年で使い続ける別冊「Picture Dictionary」がついており、小学校で学びたい語（600～700語程度）や表現が収録されている。単語を4線上に正しく書き写すときなどに活用できます。また、別冊になっていることで2年間の学びを児童が必要なタイミングでふり返ることができます。

「学校図書」につきましては、

- P41のように、レッスンの目標と学習の進め方が明示されており、児童が見通しを持って学習できる内容となっています。
- P34など、新学習指導要領で求められている「思考力・判断力・表現力等」の育成を大切にしている内容の取扱いとなっています。①（繰り返しの中から）つかむ ②（実際のコミュニケーションとして）使う ③（英語を通して学びを）広げる 内容の取扱いとなっています。

「光村図書」につきましては、

- P39のように、各Unitの活動や終わりに設けられているFun Timeで、他教科等で学んだことを生かせる活動が設定され、教科横断的な学習で既に持っている知識や経験を活用できるので、学習意欲が高まり、活動内容を深めることができます。
- 巻末にある、水性ペンで何度も文字を書いたり消したりすることができる「ペンマンシップ・シート」が付いており、児童が文字を書く練習をくり返しおこなうことができます。

これらが特筆すべき事項です。

羽曳野の子ども達にふさわしいという意見が多かったのは、4技能5領域を扱っている箇所が大変多く、他教科と関連させて理解を高める工夫がよりなされているという点を重視して、「東京書籍」でありました。

ご審議よろしくお願いいたします。

《教育長》

英語について、選定委員会から第1候補として「東京書籍」次に「学校図書」「光村図書」との意見が出ました。意見・質問がありましたらよろしくお願いします。

《教育長》

各教科書の新学習指導要領における特徴はどういったところでしょうか。

《選定委員長》

どの教科書も新学習指導要領に基づき作られているので差異はないですが、東京書籍は、より見える化されています。6年P19では、コミュニケーションを図るうえで非常に分かりやすく、対話的に深い学びができるようになっていると思います。

《麻野委員》

小学校で初めて英語の教科書に触れる子ども達に、あまり難しくいっぱいスペルが並んでいるような教科書ならしんどいのではないかと思っていましたが、東京書籍は、適量で絵も写真も多く分かりやすくいいと思います。

《教育長》

子ども達が楽しく学べるという点でいうと、東京書籍は、見た目にやわらかくてやさしく楽しい感じがいいと思います。

【採 決】

全委員一致により英語の採択教科書を「東京書籍」とすることに決定しました。

道徳

《選定委員長》

道徳における教科書は8社ありますが、道徳の学習で大切なのは、よりよく生きていくための基盤となる道徳性を養うため、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を養うことです。その視点で、選定委員会において比較検討した結果、発行番号順で「東京書籍」、「日本文教出版」の2社に絞りました。

それぞれの特徴的なところとして、（6年教科書）

「東京書籍」につきましては、

- P55のように、いじめの項目がユニット構成になっており、複数教材をつかって多面的・多角的に指導できるようになっています。
- P54など、「考えよう」という内容を文末に設けており子どもが何を判断すべきか、考えるべきかがわかるようになっています。

「日本文教出版」につきましては、

- P18 では、見開きで写真を掲載したり、いろいろなアニメや漫画を掲載していることで、教材に引き込まれるようになっていきます。
- 道徳ノートを別冊で設けることで、学習の記録を残すことができます。

これらが特筆すべき事項です。

羽曳野の子ども達にふさわしいという意見が多かったのは、児童一人ひとりが多面的に考えたことや、発見したことについて意見が言える、また、発達段階に応じた課題提示の工夫がされている点から、「東京書籍」でありました。

ご審議よろしくお願いいたします。

《教育長》

道徳について、選定委員会から第1候補として「東京書籍」次に「日本文教出版」との意見が出ました。意見・質問がありましたらよろしくお願いします。

《教育長》

現在使っている教科書と違った教科書となりますが、その点はどうでしょうか。

《選定委員長》

選定委員会では、羽曳野の子ども達にとっては、意見が言いやすい、意見交流、いわゆる対話的な学びができるというところで、書き込み冊子があるものは、意見の幅広いあつかいが、子ども達にとって制約になったりしないかという意見も出される中で、意見交流、意見が言えたり考えが広げられるという道徳の教科の特性の視点から、冊子がついていない方で、考えるべき方向も幾分示されている方がよいのではないかということで、多面的、多角的に指導ができるようになっていて、かつ、「考えよう」という内容を文末に設けられていて、考え方について焦点をしぼって議論ができるというところで、子ども達も考えやすいのではないか、というところで東京書籍が選ばれました。

《教育長》

市民の方の意見の中で、東京書籍の「星野君の二墨打」について触れられていましたが、その点はどうでしょうか。

《選定委員長》

選定委員会においても深い議論になりました。すべての選定委員が同じ認識でしたが、話の内容が、道徳の時間ではない何らかの場面に取り上げられたときには、さまざまな議論が起こるだろうということは想像できました。あくまでも、教科道徳の教材、または、教科道徳の特性として考えますと、いろんな教材によるいろんな場面を子ども達に提供して、深く考察、探求させるということが大切であり、そういう面から言いますと、教材としてよろしいのだろうという結論になりました。

【採 決】

全委員一致により道徳の採択教科書を「東京書籍」とすることに決定しました。

《学校教育室長》

以上ですべての教科の採択が決定しました。
採択した小学校の教科用図書を読みあげます。

令和２年度小学校使用教科用図書

国語	…	光村図書
書写	…	日本文教出版
社会	…	教育出版
地理	…	帝国書院
算数	…	東京書籍
理科	…	大日本図書
生活	…	啓林館
音楽	…	教育出版
図画工作	…	日本文教出版
家庭	…	開隆堂出版
保健体育	…	東京書籍
英語	…	東京書籍
道徳	…	東京書籍

以上です。

《教育長》

これで、令和２年度小学校教科用図書の採択について終わります。

休憩：午後１時４５分～

再開：午後２時００分

日程第４ 教育長月次報告

教育長から次のとおり口頭にて報告がありました。

- (１) ６月１９日に、大阪府教職員人事対策連絡協議会が行われました。
- (２) ６月２６日に、第１回社会教育委員会議が行われました。
- (３) ７月２日に、第１回公民館運営審議会が行われました。
- (４) ７月４日に、全国都市教育長協議会第３回理事会が行われました。

- (5) 7月5日に、大阪府都市教育長協議会役員会・7月定例会が行われました。
- (6) 7月5、6日に、百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録決定パブリックビューイングが行われました。
- (7) 7月8日に、第2回南河内地区人事協議会が行われました。また同日、第2回南河内地区市町村教育長連絡協議会が行われました。
- (8) 7月11日に、羽曳野市婦人団体協議会設立60周年記念式典が行われました。また同日、大阪府都市教育長協議会役員・小中学校長会役員合同懇談会が行われました。
- (9) 7月24日に、第1回羽曳野市子ども読書活動推進委員会が行われました。
- (10) 7月26日に、大阪府都市教育長協議会夏季研修会が行われました。

日程第5 議案第19号

羽曳野市立中央スポーツ公園条例施行規則の一部を改正する規則の制定について 《資料7》

●教育次長より資料に基づき、羽曳野市立中央スポーツ公園条例施行規則の一部を改正する規則の制定について説明があり、承認を求めました。

《各委員意見・質問なし》

【採 決】本件は、全委員一致により原案どおりに可決することに決定しました。

日程第6 議案第20号

後援名義の使用許可について 《資料8-1、資料8-2》

●事務局より教育長において専決した継続分の後援名義の使用許可について、説明と報告がありました。 《資料8-1》

《各委員意見・質問なし》

●まちまるしえ実行委員会 まちまるしえ vol.7 《資料8-1、資料8-2》

社会教育課課長補佐より資料に基づき、事業の主催者、事業名、開催の趣旨等について説明がありました。

《教育長》 羽曳野市の後援名義はどうか。

《課長補佐》羽曳野市、教育委員会とも、今回の申請が初めてです。

《教育長》文化や生涯学習につながるような事業内容でしょうか。

《課長補佐》子どもに物作りを経験させる等のブースもあり文化的な面もあります。

《教育長》他市での状況はどうでしょうか。もう少し事業内容の詳細について確認してもらってはどうかでしょうか。

《麻野委員》規定では、どうなっていますか。

《事務局》後援名義使用等に関する要綱に照らし合わせると、該当しないわけではないですが、事業の性質、規模等を勘案して、教育効果が認められるかどうかということではないでしょうか。

【採 決】本件は、全委員一致により継続審議とすることに決定しました。

日程第7 議案第21号

令和元年度羽曳野市市民表彰候補者の推薦について

《資料9》

●教育総務課長より資料に基づき、令和元年度羽曳野市市民表彰候補者の推薦について説明があり、承認を求めました。

《各委員意見・質問なし》

【採 決】本件は、全委員一致により原案どおりに可決することに決定しました。

日程第8 その他

・事務局より、今後の日程について連絡がありました。

教育長より次回の8月定例教育委員会議を、8月22日（木）に予定することを通知しました。

〔 教育長 閉会の挨拶 〕

閉会：午後2時35分